

コンプライアンスにガバナンス、サステナビリティと続いて今や、ダイバーシティも加わり、空虚なカタカナ英語が企業理念というハリボテを支えている。

ダイバーシティ：個々の人の「違い」を尊重し受容する、自分とは相容れない価値観を認め、受け入れることは並大抵のことではない。

昨年、来日したローマ教皇は「結婚、それは苦難です（笑）」とユーモラスに語った。

将来を誓い合う二人ですら、相容れない価値観を有するからであり、民族や宗教、文化のような大きな属性が異なる場合は、なおさらである。

カトリック教会の最高位聖職者である「教皇」は、広島、長崎を訪れ、核兵器を断罪した。また、一昨年カトリック教会は、教理を変え、公式に死刑の全否定を明確化した。

憎悪ながら、核兵器の断罪は、それを使用した国や保有している国に赴いて、お叱り頂きたい。また、日本では、善良な人が酷い仕打ちにより、その命を奪われた時、その遺族は必ず加害者に「極刑」を望む国であることをご理解頂きたい、とも思ってしまう。

異宗教・異文化の価値観を受け容れ難いのは至極当然だ。だが、一様に野蛮だとか非道徳的だと決めつけるのはどうだろう。聖書を大事にする国々が、帝国主義的、覇権的外交を少し控えるだけで、争いの種は減る。地球の裏側まで軍隊やスパイを送っている国は、どんな教えに導かれて、それを是としているのだろうか。

ある意味、布教というのは、考え方、価値

多様性

文 白石茂樹 text by Shigeki Shiraishi

観の同化、共有を戦略的に促す行爲だ。

宗教で地球を救えない最大の理由はそこにある。相手の価値観を認めていたのでは、布教は進まない。グローバリズムを推進し、ハリボテのパフォーマンスを高めるためには「多様性」は有効だ。しかし、政治の現実には「多様性」など歯牙にもかけず、踏みについでいる。

広島、長崎の核攻撃も、根底には「多様性」の欠如がある。特定宗教をテロ予備軍のように扱うのも然り：有色人種だから？ムスリムだから？

「自分たちの価値観こそサイコー」とばかりに帝国の上から目線は今も昔も大きく変わらない。大航海時代、帝国主義時代を経て、多様性を無視した帝国の干渉が今も「争いの種」になっていることは言うまでもないし、地球の裏側のことなんて放っておけばいいではないか？価値観の強要などもつてのほかだ。

人間は愚かだから、宗教が必要だと言われる。だからこそ、その宗教が違えば、争いが始まるのも自明の理だ。つまり、宗教では「多様性」を救えない。

核兵器は人間の英知である。死刑制度もまた人間の英知である。

その抑止力があるからこそ、その他多くの命と多様性が守られている現実は否定できない。

悪想念を抱えた人間の絶えなき欲望を前にして、神は無力だ。

いや、人間の多様性に絶望しておられるのかもしれない。



Profile

安全保障・教育評論家／1964年、福岡生まれ。関西学院大学法学部卒業、横浜市役所、議員秘書を経て現職。著書に「概説戦後学校教育」「武徳教育のすすめ」。



美楽での連載を束ねた百念撰集
「雲涯蒼天」
定価 700円
Amazonにて販売中